

三陸の海を放射能から守る 岩手の会

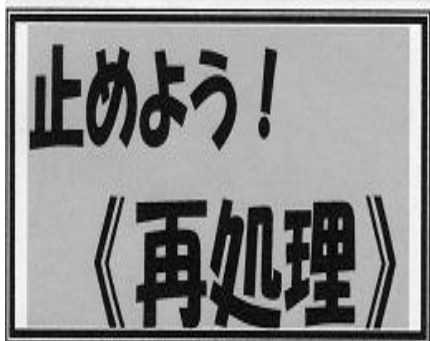
郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理／岩手の環境》

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《まった再処理分庫》

<http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag>



《天恵の海》

2013(平成25)年

1月10日

第121号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

子どもたちの甲状腺検査 岩手県から回答 調査結果等を注意深く見守り、 速やかに対応出来る態勢を整える

「岩手県南三市町の子どもの甲状腺検査実施を求める要望」への回答が、十二月二日、「岩手の会」世話人宛に届きました。当該が前号で報じた十一月二日の市民団体が提出した質問書への回答で、岩手県保健福祉部長名になっています。甲状腺検査について岩手県は「国や福島県の調査を注意深く見守り、必要な場合に速やかに対応出来る態勢を整える」としています。市民からの要望を受け止める姿勢も見受けられますが、子どもの健康被害防止のために手遅れにならない施策が望まれます。



岩手県庁

回答書の内容

1、甲状腺検査について
「国の対照検査（青森・山梨・長崎県）結果を踏まえて対応したい」と答えています。

福島県の甲状腺超音波検査は、原発事故から一、二年という「現時点での甲状腺の状況」把握であり、公表資料「A2」について「通常の診療では、『所見あり』とは捉えられないものの、長期

にわたり健康を見守る観点からあえて記録に残し伝えていると聞いている」とし、福島県の検査と比較のため青森県、山梨県、長崎県で国の調査が行われているので、その結果を待つて有識者会議で検討する、としています。

2、有識者会議へ市民代表の参加について

内部被ばくについて学術的、専門的な見地から助言・評価を頂くことを目的としており、県の方針決定や政策的判断の場ではないことを理解してほしい。県としては、県民の声には広く耳を傾けていきたい、内部被ばく影響調査の継続や支援事業費補助制度を創設してきたところである、としています。

3、その他の疾病予防について

汚染重点調査地域に指定されている県南三市町を対象に、住民に身近な相談窓口である市町が実施する健康相談及び希望者への内部被ばく検査に要する費用への補助制度を創設した。国及び福島県の動向や新しい知見の動向等々を注意深く見守りながら、必要な場合に速やかに対応できるよう努めてまいります。

0000

*回答書全文は、岩手の会ホームページ『再処理／岩手の環境』に掲載。

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

◇この岩手県からの回答をどのように評価し健康被害防止に活かせるのか。私たちの市民運動の責任がかります。北海道の甲状腺専門医の中から「福島県の検査結果のような、子供の甲状腺のしこりや嚢胞の多数発見例は見たことがない」との意見書が公表されています。

次回の「県内部被ばく有識者会議」は一月二五日（金）に開催されます。

子どもの内部被ばく量測定「尿検査」募集県南三市町
被ばくを心配する親たちの要望を受けて国が「汚染状況重点調査地域」に指定した奥州市、一関市、平泉町が希望者に尿採取による内部被ばく量を測定する検査事業を実施しています。岩手県が昨年十二月以来行っている追跡調査を行っている一三二人の調査とは別。募集窓口は三市町役場で。検査は無料。通常二日間程度採尿した尿二リットルを提出し、受付次第順次検査のうえ、二、三月には結果通知を発送するとしています。

◆取手市で小中生の心臓「要精密検査」増加

取手市の市民団体は二五日、市立小中学校二四校の心臓検診で、受診者一六五五人中、一次検診で「要精密検査」と診断されたのは七三人で、昨年度の二八人の二・六倍に増大したことを公表しました。中学生だけを見ると一七人から五五人へと三倍増。取手市は守谷市土浦市などとともにホットスポットの存在が指摘されています。（東京新聞茨城版）

脱原発うんどう短信

薪ストーブの灰の測定値

放射線と健康についてのある町の市民学習会で、有機農業家の薪ストーブの焼却灰のセシウム量について話題になりました。その有機農業家は「町役場の町民課」が仲介し民間検査センターで測定した「測定報告書」を見せてくださいました。

◇検査品目1 「ほだ木」

平成24年8月13日 測定

セシウム134+137 65Bq/kg・乾重量

町当局の指導は「きのこ栽培の原木としては使用を自粛のこと」、でした。この農家は家業のしいたけ栽培が出来ず途方にくれています。

◇検査品目2 「薪ストーブ焼却灰」

平成24年3月29日 測定

セシウム134+137 4200Bq/kg

町の指導は：「焼却灰の暫定基準値8000Bq/kgを下回っているの、不燃物として回収」に出すこと。

◎「クリアランス制度では基準値は100Bq/kg（不燃物）以下」。4200Bq/kgは放射性物質。これはクリアランス制度の法定値を超えている。この学習会では「瓦礫に関わらず、放射性物質を含んだものを燃やすことによるリスク」について話し合われました。

出席者が各地での運動を報告し合い多岐にわたる問題が提起されました。沿岸部の津波被災地での瓦礫問題や県南の親たちの内部被ばく検査要請運動、手作りハム、ソーセージ加工業の受けた深刻な実態、子を持つ親としての心配、毎週金曜日続けられていく脱原発デモなどが話し合われました。

甲状腺の検査の意味

交流会には仙台日赤病院の呼吸器科の岡山博先生が参加されました。先生は「福島事故で放出された放射性ヨウ素は微粒子で呼吸器を通じて体内に入り甲状腺に蓄積したが、二ヶ月ほどで急速に減衰し、現在は測定できない。しかし、私の推定では基準値の数十倍以上の危険な放射能の風が渦巻いた。子どもの甲状腺検査をしつかりやり実態を捉え対策を急ぐべきだ」と語りました。

また瓦礫についても燃やすのではなく現地に埋め立て、より安全に管理する方法などを提起されました。（尚）

第2回

放射能問題市民交流会

放射性物質を含んだ可燃物を燃やしてよいのか？

第二回放射能問題市民交流会が十二月九日（日）盛岡市内ベルフ青山で開催されました。六月に第一回市民交流会開催されたことを受けて、岩手県内を中心に二〇余人が出席し、各地域でそれぞれが活動してきた状況を報告しあいました。

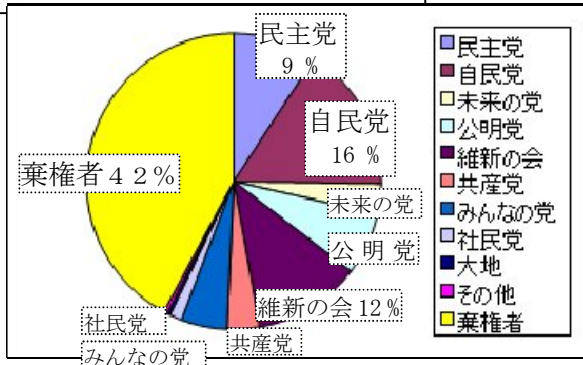
特に子どもを放射線から守るために行政に「放射能内部被ばくの検査」を要求し、健康被害について予防的措置を要求する運動について話し合われました。また、津波被災地の瓦礫の焼却処分は、沿岸被災地にとって悩ましい問題であることを踏まえ、これについては、瓦礫であれ樹木であれ、放射能のついたものを燃やすことは、容積は減らすものの、灰などの放射能はますます値の高いものとなり、放射能を撒き散らすので避けるべきであると話し合われました。未曾有の災害から立ち上がるために真に正しい解決方法は何か、考えを深める場となりました。第三回交流会を今年度開催することを確認し終了しました。

衆議院選挙

本当に圧勝した政党があったのか？

脱原発は天の声 輿論である

各党投票割合(比例全国集計)



「絶対得票率」：選挙時点の
全有権者数 1億0395万9866人を分母

日本の総人口
1億2752万人
(総務省統計局推定値)



非有権者 2356万人

福島原発事故後初の総選挙。

- ◇事故は収束せず活断層の上で原発がまだ2機動いている。各原発等には約1万5000トンの使用済み核燃料が溜まり、東海・六ヶ所再処理工場には高レベル放射性廃液があり、冷却電源を失えば沸騰、また発生する水素爆発により放射能の大量放出が心配。
- ◇日本列島住民は、地震のたびに怯えなければならない。これはあまりに不合理なことなので、《命を守るために即時脱原発を！》は国民の声になっている。
- ◇「脱原発」について曖昧な態度を取り続ける自民党が勝ったが、「民意の反映」とはいえない。

